The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	１９世紀末から２０世紀初頭のパリにおけるブルジョワ女性
Author(s)	松田, 祐子
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49104
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【21】

氏　　名	松　田　祐　子（まつだ ゆうこ）
博士の専攻分野の名称	博　士（文　学）
学　位　記　番　号	第　２１６８４　号
学 位 授 与 年 月 日	平成 20 年３月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第４条第１項該当 文学研究科文化形態論専攻
学　位　論　文　名	**19 世紀末から 20 世紀初頭のパリにおけるブルジョワ女性**
論 文 審 査 委 員	（主査） 教　授　藤川　隆男 （副査） 教　授　竹中　　亨　　准教授　栗原　麻子

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、19 世紀末から 20 世紀初頭のパリのブルジョワ女性の生活や心性を、ブルジョワ意識と家族意識を軸にして、解き明かそうとした研究である。論文は、本論４章と序章、結論、文献目録等からなり、本文約 130000 字、図やグラフをのぞき全体として約 190000 字の分量である。

序章では、論文の目的と方法が明らかにされており、「家族」を軸としてブルジョワ女性の生活や心性を分析する意義が述べられている。また、全体を通じて中心的な史料となる、19 世紀に急速に発達した新聞や雑誌を利用する意味について、検討がなされている。

本論の四つの章では、ブルジョワ女性をめぐる、結婚、子育て、社交、家計管理の問題が、ブルジョワの「家族」の繁栄と継承の戦略として、それぞれの章のテーマになっている。

第１章「ブルジョワジーにおける結婚」は、結婚契約、娘の教育、未婚女性の問題、離婚、恋愛観、日常生活における世代的変化を扱い、当時の結婚の様式、前提条件、当時の女性の結婚に対する意識を明らかにし、多くの制約がありながらも、ブルジョワ女性の多くが女性としての人生を肯定的に理解していることを明らかにしている。

第２章「パリにおける『住み込み乳母』」は、乳母産業の実態、「住み込み乳母」が拡大した理由、「住み込み乳母」への批判とブルジョワ女性批判の関連、女性たちの批判に対する反応などを扱い、フランスのパリを中心とした「住み込み乳母」という特異な制度を通して、当時のブルジョワ女性の生き方を解明している。

第３章「社交生活から生まれた『主婦』」は、ブルジョワ女性にとっての社交の意味、社交という観点から見た住居の問題、掃除への関心の拡大から、主婦が誕生する状況を扱い、ブルジョワジーの家の女主人であったメトレス・ド・メゾンが、いかなる歴史的な変化を通じて、メナジェール（子育て、家事をする妻）と融合していったかを検討している。

第４章「ブルジョワ世帯の家計」は、前半で家政学、後半でブルジョワ世帯の予算配分を扱う。前半部は、家政書の検討から始まり、家計管理の拡大と家計簿の問題を考察し、後半部は、予算配分の原理から始まり、家賃、衣服費、給金、食費、養育費など、個々の支出項目の検討を行い、ブルジョワ家庭の生活の戦略を明らかにしている。

論文審査の結果の要旨

本論文の最も重要な貢献は、19 世紀末から 20 世紀初頭のパリにおけるブルジョワ女性の意識や生活様式を、当時急速に発行部数を拡大した新聞や雑誌、『ル・プチ・ジョルナル』、『イリュストラシオン』、『フェミナ』、『ラ・モード・イリュストレ』、『ラ・モード・プラティク』などを通して、分析した点にある。家族の歴史人口学的な動態分析には、比較的確立した方法があるが、家族の意識や、家族の戦略、家族間の愛情の問題などは、数量的分析にはなじまず、アプローチの困難な課題であった。大衆紙や女性誌、モード雑誌などを広範に利用することで、ブルジョワ女性の意識を理解しようとした試みは、オリジナルな着想であり、大いに評価すべき点である。

本論文のもう一つの優れた点は、意識や生活様式の研究にありがちな、ともすれば静態的な分析に陥ることから免れているところにある。ブルジョワ女性やその家族を急速に変化しつつある歴史的なコンテクストに位置づけることによって、変わりゆく階級関係や国民意識の変化、経済的・社会的な変動に対する、ブルジョワ家族やブルジョワ女性の対応戦略と、こうした変化とともに組み替えられるブルジョワ女性の理想像を見事に描き出している。また、「主婦の誕生」という概念でこれを明示したことは、論文を非常に理解しやすいものにしている。

このように、本論文は、女性史やジェンダー研究、家族史などにとって多大な意義を有しているが、問題がないわけではない。新聞・雑誌などの史料を大量に利用した点は、本論文の優れた点であると同時に、そこから抽出されるブルジョワ女性像が何を意味するかという問題に関して、さらに深く検討し、体系的に提示する必要があったように思われる。また、ブルジョワ女性の生活に関して、結婚、子育て、社交、家計管理という四つのテーマが、自明であるかのように選択されているが、同様に重要であったと思われる、慈善活動や教育のような領域についても検討する余地が残されている。外国人の観察などを利用することで、フランス社会を他と比較し、比較史の文脈に位置づけようと努力をしているが、とりわけ未婚女性の問題などは、他国の研究者との交流を図る上でも、いっそう本格的な比較史的手法を取り入れることも可能であったと思われる。

しかし、これらの瑕疵や課題は、本論文が達成した成果と意義を損なうものではない。よって、本論文を博士（文学）の学位にふさわしいものと認定する。